

令和4年度 豊橋市外国人市民意識調査

■調査の概要

- 1.調査対象 :豊橋市内在住の満18歳以上(外国籍)の男女416人
 2.調査方法 : (1)調査票を郵送。郵送またはwebにより回答
 (2)市内の窓口などで調査票を配布。記入後、直接回収

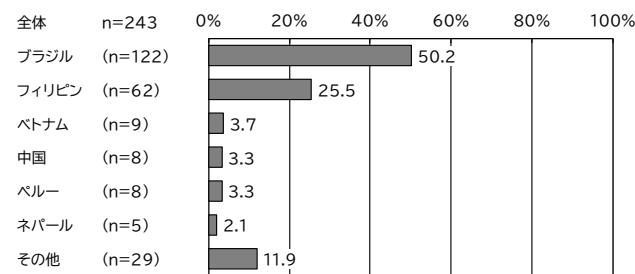
- 3.調査期間 :令和4年12月13日(火)～令和5年2月12日(日)
 4.有効回収数 :248人(内web回答23人)
 5.回収率 :59.6%

■調査項目

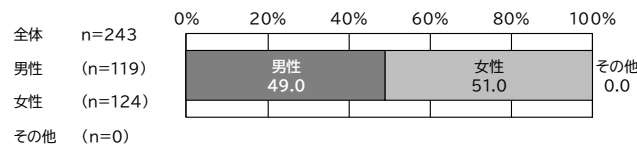
- 1.あなた自身について
 2.豊橋市の住みやすさについて
 3.生活での差別や不安などについて
 4.自転車の安全な利用について
 5.防災対策について
 6.ごみについて
 7.市民協働によるまちづくりについて
 8.「SDGs(持続可能な開発目標)」について
 9.火事や救急の通報について

◆回答者の属性

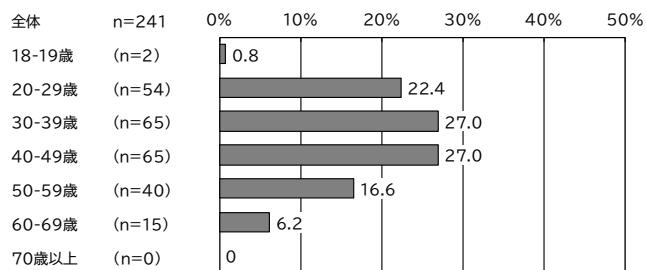
【国籍】



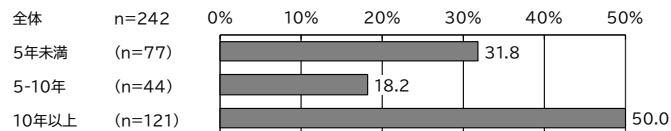
【性別】



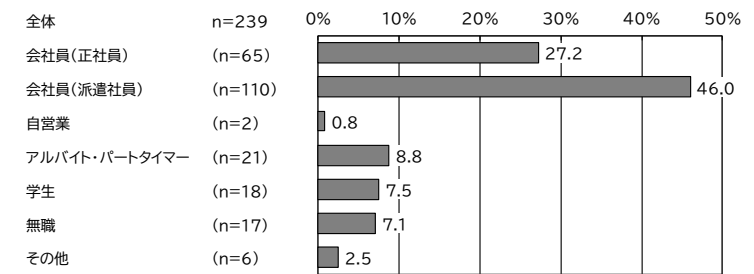
【年齢】



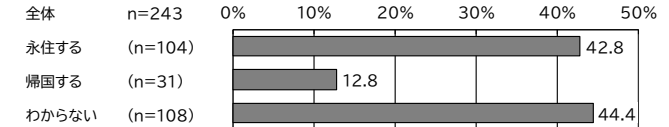
【日本在住年数】



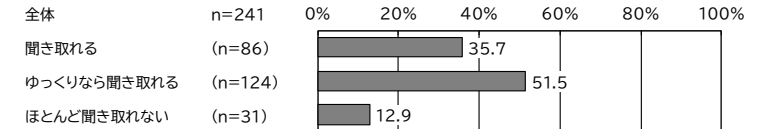
【職業】



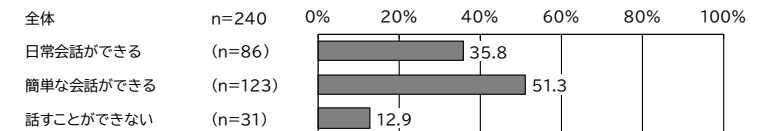
【今後の予定】



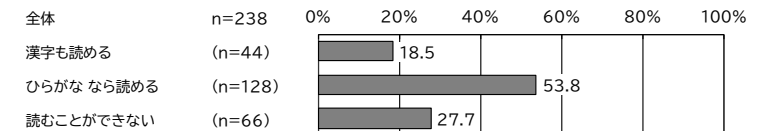
【日本語(聞く)】



【日本語(話す)】



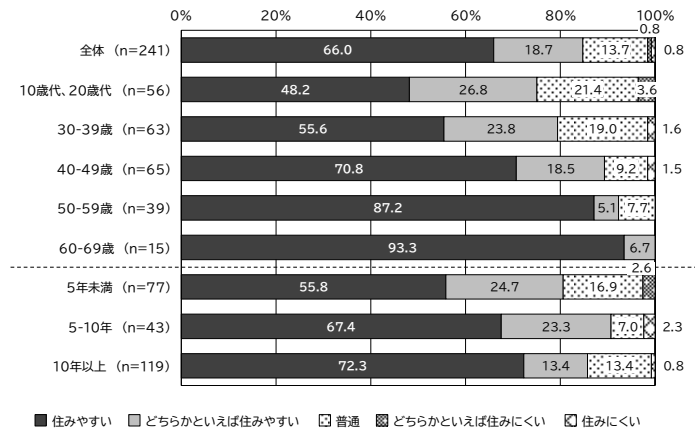
【日本語(読む)】



◆豊橋市は住みやすいまちだと思いますか。

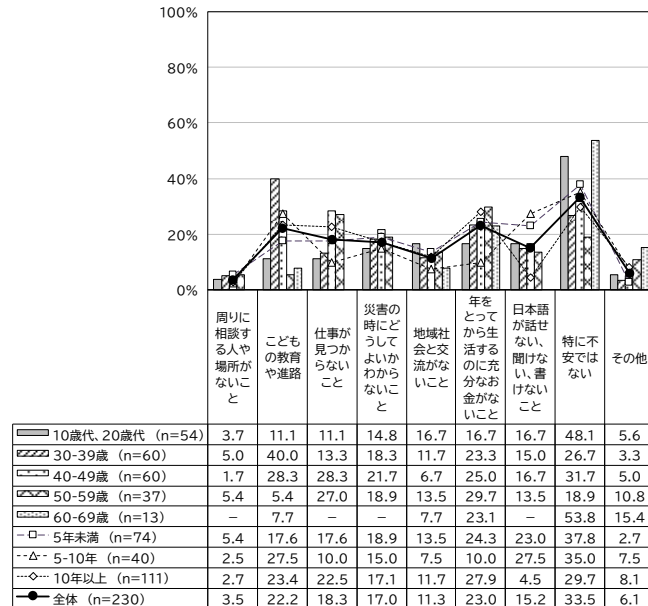
すべての年代で、「住みやすい」と回答した人の割合が高く、特に60-69歳が93.3%と他年代より高くなっており、年代が上がるにつれて「住みやすい」と回答した人の割合が高くなっている。

また、日本在住年数が10年以上の人の72.3%が「住みやすい」と回答している。日本に来て年数が多く経過している人ほど「住みやすい」と回答する割合が高くなっている。



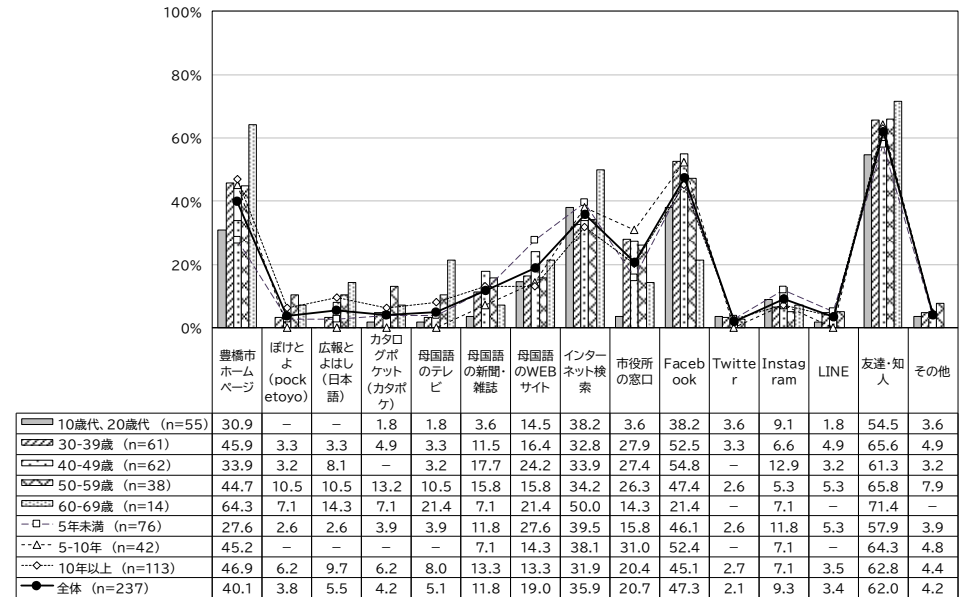
◆生活や将来のことで不安を感じることがありますか。(複数回答)

全体では、「特に不安ではない」と回答した人の割合が33.5%と最も高くなっている。日本在住年数別にみると「特に不安ではない」と回答した人の割合が最も高かったのは在住5年未満(37.8%)で、次いで5-10年(35.0%)、10年以上(29.7%)であった。日本に来て年数が経過した人ほど不安を感じている傾向がある。



◆豊橋で生活するために必要な情報はどこから得ていますか。(複数回答)

すべての年代において、「友達・知人」と回答した人の割合が高く、10歳代、20歳代の54.5%から60-69歳の71.4%まで他の媒体等に比べて多くの人が情報を得ている。「豊橋市ホームページ」「インターネット検索」「Facebook」は各年代で比較的多く利用されている。



◆火事や救急の通報は「119」と知っていますか。

年代別で見ると、「知っている」と回答した人の割合は10歳代、20歳代が69.6%で、他年代では8割以上が「知っている」と回答していることを踏まえると、比較的認知度が低い。また、日本在住年数別では、「知っている」と回答した人の割合が最も高いのは10年以上で90.5%となっており、在住年数が長いほど認知度が高い傾向がある。

